

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校采井協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 池田高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年11月2日(木) 10:00～12:00
- 3 開催場所 池田高等学校 視聴覚教室
- 3 参加者

会 長	小林 月子	サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
副 会 長	西川 昭	地域商工会等代表
委 員	高橋 利行	池田町教育長(欠席)
	宇野 秀宣	神戸町教育長(欠席)
	河村 茂雄	池田町立池田中学校長
	岡田 勝彦	神戸町立神戸中学校長
	寺戸 敏彦	池田町杉野区長
	高橋あゆみ	神戸町立北小学校読み聞かせボランティア 神戸町立図書館運営協議会委員
	安田 正博	県青少年健全育成指導員
	林 康彦	育友会長
学校側	鈴木 彰	校長
	栞原 利樹	教頭
	若園 佳織	事務長
	吉田 一臣	教務主任
	坂口 美穂	教育相談係(生徒指導主事代理)
	古山 克幸	進路指導主事

5 会議の概要(協議事項)

○池田高校に望む教育、学校の在り方について

意見1: いじめ関連については親として、子どもが会話できる雰囲気や話せる人を見つけられるとよい。また地域連携についてはどこまで連携を広めていこうと考えているか。広げすぎると収拾がつかなくなるのではないかな。

⇒あまり限定してしまうと教員による従来の教育の枠を超えられないので、調整しながら様々なことに挑戦したい。

意見2: 求人をする立場では、会社を運営していく側の人間をどう育てるかということをも考えており、業務に関する知識や技能のほか、営業を強化するための広い意味での語学力、コミュニケーション力のある方を望んでいる。地域連携の範囲決定は、探究活動の中で進路の観点から目的をはっきりさせながら進めるとよいのではないかな。

意見3: 進学希望者が大半という状況で、専門に偏った教育というのは難しい。一般的な学

力を上げる努力をすることが基本ではないか。就職を考えている生徒には、単位制を生かして対応する科目を設けるとよい。

意見4：探究活動や単位制の特徴を生かしたコース別の学習の中で地域連携を図って、人材を育てようとしていることが説明を通じてよく伝わってきた。ボランティアを含め、多様性を目指す地域連携では、これまでの一斉型ではなくそれぞれに応じた小口型の流れになろう。

意見5：中学生が池田高校に行きたいと思えるためには、自分の進路実現ができるような教育がなされていることが大切である。授業参加や説明から、習熟度別や個に応じた学習指導や、多様なニーズに対応できる進路体制が整えられていると思われる。単位制もまだ2年目なので、今後積み重ねていくうちに変化していくであろう。

意見6：学びをいろいろなところに繋げていくとよい。その中の一つとして、地域探究が自分たちの学習にしっかり結びつくと、将来大人になって職場に出た後にそれらを思い出して「地元に戻ってもう1回なんかやってみよう」という社会貢献に結びつくのではないかな。

意見7：職場でほしい人材は、自主的に行動できる人だ。そういう人材が育つには、若い頃にいろいろ経験したことが自信になることで、社会人になっても様々チャレンジして、社会に貢献できるのだと思う。各委員から「多様な経験」というキーワードが出ているが、私もそれに賛同する。地域に根差した経験ができると、非常に有意義なものになるし、中学生にも「こんな経験ができるよ」とアピールできるのではないかな。

意見8：目まぐるしく変化する社会環境の中、地域できちんと自分の個性を生かして仕事をして社会に貢献するためには、多様な経験の中から自分で適切に判断をする、協議をする、そしてみんなでやっていくという力が必要である。そういう意味で、今池田高校が行っている地域連携は妥当である。

6 会議のまとめ

第2回学校運営協議会では、外部の視点から池田高校にどのようなことを期待し、どのような生徒を育てていくとよいか、またこれらに基づいた今後の学校のあり方を協議の軸として、ご意見を伺った。

そのため協議に先立ち、まず授業参観で生徒の学びの様子を見ていただき、次に地元池田町との連携事業である『池田イケてんだプロジェクト』（略称：『池イケ』）のリーダー生徒2名による活動紹介及び質疑応答、そして学校評価アンケートの結果に基づいてこれまでの取組を説明した。なお『池イケ』は、池田町の隠れた魅力や様々な年代を対象とした魅力について調べたり体験したりして、それらをSNSで発信することを目的として活動している。昨年度の「総合的な探究の時間」時に池田町役場の方へ生徒が発案したことをきっかけに池田町から提案があり、本年4月から本格的に活動を始めたもので、新たに発足した地域連携活動である。

協議においては、「多様な経験」を通じてこれからの社会に対応できる力の育成が望まれており、その点において探究学習や地域連携をはじめとした本校の教育活動への期待感を改めて確認することができた。また保護者や地域、企業や中学校など様々な視点から、具体的な助言や示唆をいただき、期待に応える今後の学校運営を考えるうえで大変参考となった。